

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	市立川西病院市民モニター会議(第2回)		
事務局(担当課)	総合政策部 病院改革推進課 (内線2216)		
開催日時	令和元年9月24日(火) 10時00分～		
開催場所	市立川西病院 2階 講義室		
出席者	委員	加門委員・後藤委員・大村委員・森寺委員・高須賀委員	
	その他	指定管理者 市立川西病院清水事務部長	
	事務局	総合政策部作田理事(病院改革推進担当)・総合政策部病院改革推進課清原課長・上原主査	
傍聴の可否	不可	傍聴者数	—
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由	当会議の意見交換などの内容を公にすることにより、率直な意見の交換が不当に損なわれる恐れがあるため、傍聴を不可とする。		
会議次第	1. 開会 2. 議事 (1)市立川西病院に関する意見及び提案などに関する意見交換について (2)その他 3. 閉会		
会議結果	別紙会議経過のとおり(要旨)		

審議経過

1 開会

2 議事

(1) 市立川西病院に関する意見及び提案などに関する意見交換について（資料1）

ア 第1回目モニター会議での意見・提案への対応について

(ア) 病院の積極的なPRについて（ホームページ更新状況含む）

指定管理者： ホームページについては、日常業務もあり、前回から思うようにはかどっていない状況であるが、すぐにお伝えしたい情報を優先して更新している。

また、地域包括ケア病棟及び緩和ケア病棟の稼働率を上げていくためには、近隣医療機関や介護福祉関係の施設との連携が必要となる。

直接、医療機関や介護福祉施設に出向いてPRを行っていくことで、入院患者の受入れを増やしていきたい。

委員： 病院の周知に動いていることはよく分かるが、地域とのつながりも大切にしたい。

委員： 市民に対する広報は最優先にして欲しい。

(イ) 看護体制について

指定管理者： 現状は、10対1のままである。看護師の確保については、紹介会社経由等も含め、少しずつ進めているが、退職もあるため、7対1に戻すことはできていない。今後も看護師の確保に努め、患者の受入れもしっかりしながら、タイミングをみて元に戻していきたい。

一日入院患者数は、120人を切っていることがあり、このように、患者が少ない状況で7対1にするのは難しい。一日あたり入院患者数が140～150人を目指している。

委員： 支援が多く必要な病棟には、看護師は多く配置されているのか。

指定管理者： 病棟によって、看護師の配置を工夫している。急性期の病棟は、10対1、地域包括ケア病棟は、13対1、緩和ケア病棟は、7対1である。

当面は、急性期病棟である3病棟（3北・3南・4南）で7対1を目標にして、最終的には、4病棟（3北・3南・4北・4南）で7対1としたい。

委員： 8月26日の市立病院整備特別委員会の資料によると、看護師が、6月、7月に4名ずつ退職をしている。4月に141名いたのが、7月には134

名に減少しているが、新しい看護師の受入れ状況はどうなっているか。

指定管理者： 看護師が退職したのと並行して、非常勤職員を数名ずつ紹介会社経由で確保している。

委員： 元市職員の看護師等が6月、7月の2か月間で6名退職しているので、現場が手薄になっていないか心配である。

指定管理者： その分、協和会から応援にきており、即戦力の看護師も含まれているので、現場は混乱していない。

委員： 退職した看護師は、他の病院で勤務しているのか。
何故、辞めたのか掴んでいるのか。

指定管理者： 4月以降に退職した人は、3月末退職希望だったところを慰留して残ってもらった人が多い。夏の賞与支給のタイミングで退職を考えた部分もあるのではと思っている。

委員： 看護師は、8月末で何名なのか。

指定管理者： 正職員の看護職員133名、非常勤看護師は23名。

看護師を補充することは、すぐには難しいが、看護補助者として当院に勤務しているベトナム人留学生（介護福祉士養成学校の学生）が、9名から、10月1日に8名増員し、17名となる予定である。

看護師でなくてもできる業務を行う補助者を増員することで、看護師の助けになり、看護体制全体が充実してきている。

(ウ)地域貢献について

指定管理者： 現時点では、コミュニティ会長と具体的な取組みについての相談が、出来ていないが、この度、当院の取組として、当院の2階講義室で、認定看護師によるミニ講座を10/10、11/21、2/20の3回企画しているので、できるだけ地域の皆さんに向けて発信できればと思っている。今後もいろんな取組を進めていきたい。

委員： チラシを置いたり、お知らせしたりなどは、コミュニティや自治会などと上手に連携していけると思う。

委員： 会場が病院となっているが、できるだけ、自宅が近い地域で開催してもらえらるほうが、介護などで、本当に聞いて欲しい人に来てもらえるのではないか。

地域で「まちの保健室」という事業を行っており、もし地域で開催する

のであれば、内容については、協議したい。

委員： 地域とのつながりというところで、コミュニティ、自治会、PTAなどいろいろあると思うが、もっとコミュニティをうまく利用してもらいたい。コミュニティ協議会連合会のときに、コミュニティ組織の会長にチラシを配布することもできると思う。

健康教室や出前講座などを地域で開催できるようにコミュニティがパイプになっていかないといけないと思う。

委員： テーマが認知症サポーター養成講座などの場合、地域で福祉の活動をしておられる人の参加が想定されるので、定員30名では少ないと思われる。せめて定員50人ぐらいは必要ではないか。

委員： チラシは、日程がはっきり分かるようにレイアウトや色を工夫して欲しい。

指定管理者： 今後の取組について、コミュニティ会長の意見も伺いたいと思う。

講座を2回に分けて実施するとか、会場を変更するとか、チラシも工夫して欲しいなどの意見があったことを企画している看護部に伝え、検討する。

(エ)人間ドックの実績について (資料2)

資料2「人間ドック件数」に沿って、指定管理者から説明。

委員： 人間ドックは毎日実施しているのか。また、定員枠は埋まっているのか。

指定管理者： 月～木曜日まで、日帰りで、1日3件実施している。

病院で行う人間ドックについては、診療に来られている患者の合間を縫って検査している、ドック受診者用の休憩室の対応が必要であるため、1日3件を上限としている。定員枠はほぼ埋まっている。

(オ)病院設備、案内表示について

指定管理者： 病棟の照明については、蛍光灯の数を間引いて、暗くなっている訳ではない。患者搬送時にベッドで患者が上向きで寝たまま移動する際に直接、蛍光灯の光が目に入らないように配慮しており、もともと間接照明にしている病院が多い。

電球のワット数を変えることも考えたが、交換時の費用面を考えると、実施は難しい状況である。

また、案内表示については、廊下に誘導ラインをテープなどで引く提案をいただき、他病院で実施している状況も確認したが、現病院では、定期的に床が汚れるのを防ぐため、ワックスを塗る必要があり、糊で床が汚れてしまう可能性が大きいことから、壁を使って分かりやすい案内表示ができないか

考えていきたい。

委員： 最近は、照明のLED化が進んでいるが、今は、必要以上に費用をかけるのではなく、表示を工夫していくほうがよいと思う。

イ. 外来患者及び入院患者アンケートの集計結果について（資料3～4参照）

指定管理者： 総体的に、昨年度と比較して、特に低下していないと思っている。

入院患者アンケートについては、前回より満足度が増加している項目が多い。

自由意見について

① 施設について

【外来No2～5】

古いイメージを与えている。大規模な更新は難しいが、「見た目」は、整えられるように取り組んでいく。空調については、調整していく。

【入院No7～15】

入院食については、様々な意見をいただいている。栄養科とも相談し、工夫できるのであれば改善していく。

② 職員について

多くのお褒めの言葉をいただいているが、職員にも伝えるとともに、^{おご}驕らず運営していく。

【外来No4. 5】

職員の対応で不信感を持たれていることは、病院長にも報告をして、早期対応をしていく。

【No8】

対応の不手際については、所属長通じて職員の指導を行う。

【No41. 42】

委託業者の対応については、このアンケートの意見を伝え、改善を求めていく。

③ 病院について

移転や存続に関するご意見を多数いただいているが、新病院が開院するまでは、現病院で頑張っていきたい。キセラ川西に移転しても引き続き、多くの方に受診していただけるよう取り組んでいく。

④その他について

【外来No11】

「患者、家族の思いに寄り添い、病気だけでなく、人となりを見て、治療していく。」ということを経理長が日頃から職員に伝えている。

【No7】

不便な事があれば、職員ができることは対応していきたい。

アンケート集計は、これから職員と情報共有していくので、今後対応できるところは順次対応していく。

委員： 外来アンケートの質問6の「(4)当院を誰かに紹介したいと思いますか。」の問に対して、「思わない」にチェックした人に対して、「満足でない」理由を問う欄を設けてはどうか。

今後の改善のヒントにもなると思うし、一番気になる内容と思われる。

指定管理者： 今後、変更していきたい。

委員： 「かかりつけ医からの紹介で来ましたか。」という質問はないのか。

指定管理者： 年に1回、地域医療連携室が中心となり、医師会の登録医に対して、開業医が当院をどう利用しているのかアンケートを行っているので、結果がでたら報告する。

委員： アンケート結果で、ソフト面のサービスが良くなってきていることが分かったので、職員にも情報共有して、今後も頑張ってもらいたい。

ウ. その他（市立川西病院の全般について）（資料5）

資料5「患者数」に沿って、指定管理者から説明。

その他のご意見

委員： 患者が減って、収支的に悪くなる。4月350万、5月5000万、6月3600万の赤字だが、この赤字については、市からの補助はないのか。

指定管理者： 市との協定で、市からは政策医療を担うための費用として、指定管理料しかいただかないことになっているので、追加の補助はない。

協和会全体で、市立川西病院の赤字を減少するべく努力をしなければならないので、看護師も少しずつ確保していきながら、7対1に戻すタイミングを見極めている。

市： 赤字は、協和会が負担する。

今年度については、約5億4,000万円の赤字を見込んでおり、この赤字も想定範囲内であるが、もう少し、入院患者が多く来られる状況で収支の均衡を図っていただきたいというのが、市の思いである。

委員： 利用患者を増やして、収入を増やす努力をしなくてはならない。そのためには、この病院を利用したいという魅力がある病院にしないとイケない。

委員： 開業医から、病院の紹介をしてもらう時に、「市立川西病院」が選択肢に入っていなかった。ここにも診療科があるのに何故か。

委員： 開業医の紹介先に当院が入っていないということなので、改めて訪問するなど、患者に当院を紹介いただけるように努力していく。

委員： 前回の病院見学がよかった。年に1～2回こういった見学を実施していただきたい。

委員： 例えば、市内の他公共施設の見学などを組み合わせて実施してはどうか。

指定管理者： 以前、休日に「病院まつり」というイベントを実施しており、その中で病院内の見学ツアーも実施していたので、検討したい。

委員： 実施するのであれば、緩和ケア病棟の見学については、入院されている人の状態も考慮すべきである。

指定管理者： 多くの人に当院を知っていただきたいが、見学箇所は検討させていただく。

ま と め： 今後、患者を増やし、病院として成り立つようにしていくためにも、開業医とのつながりの持ち方や、病院の認知度の低さなど、病院のPRについて、しっかり考えて取り組んで欲しい。

病院職員が元気で、活気のある病院を目指していただきたい。

そして、今回の提案ですぐ改善できることは、明日からでも、取り組んで欲しい。

次回、どのような対応ができたか確認させていただく。

3 閉会